

上府中地区



【地区の自然環境概要】

上府中地区は、里、川及び街の要素を持つ地区です。

西部は水田が広範囲に広がり、田園環境を好む動植物の生育・生息の場所となっています。

市民の憩いの場でもある「上府中公園」には、水辺を求める鳥類なども集まります。

東部は耕作地や水田、小さな緑地が点在する住宅地であり、市街地や住宅地を好む動植物の生育・生息の場となっています。

東側には森戸川が流れ、周辺は河川や河川敷などの水辺環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。



【地区で見られる動植物】

河川や水田など水辺環境が特徴的であり、このような環境を利用する動植物の生育・生息の場となっています。良好な田園環境は、その環境のみで生育・生息できる種の貴重なすみかでもあり、大切に守っていききたい環境です。

- 千代一帯は、水田が広がる農耕地環境であり、オモダカやアゼナ、ウキクサ等の水田雑草が生育しています。アズマモグラ等の哺乳類、キジやヒバリ等の鳥類、シュレーゲルアオガエル等の両生類、クマコオロギ等の昆虫類などが見られ、水田環境を特徴づける種が生息しています。¹
- 「上府中公園」では、コケモモやアキニレなどが植栽され、キジバトやヒヨドリ等の鳥類、ニホンヤモリ等の爬虫類、アオマツムシ等の昆虫類などが見られ、緑の多い住宅地を特徴づける種が生息しています。また、公園内の池では、ハスやガマなどの水生植物が生育しています。アカミミガメ（外来種）などの爬虫類、ギンヤンマ等の昆虫類などが見られ、水辺環境を特徴づける種が生息しています。²近年、巣立ちのフクロウのヒナも確認されています。³
- 関口川では、ドジョウやアブラハヤなど耕作地周辺の水路を好む魚類が生息しており⁴、アオサギやコガモ、カワセミ等の水辺環境を利用する鳥類も確認されています。⁵

¹ 参考：平成30年（2018年）～平成31年（2019年）に実施した現地調査結果

² 参考：平成30年（2018年）～平成31年（2019年）に実施した現地調査結果

³ 参考：平成29年（2017年）～令和元年（2019年）に実施したヒアリング調査

⁴ 参考：平成30年（2018年）～平成31年（2019年）に実施した現地調査結果

⁵ 参考：平成29年度 小田原市自然環境等現況調査委託業務 文献調査結果



キジ

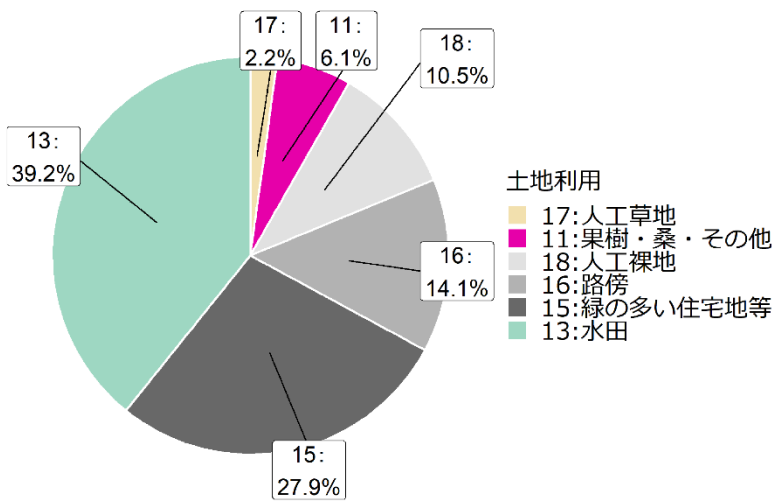


コガモ

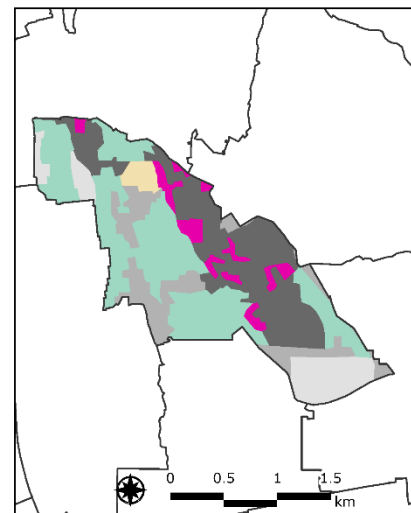


アカミミガメ

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、西部を中心に土地利用の約4割を水田が占め、西部ではその他に路傍が広がっています。東部は主に緑の多い住宅地等が広がり、その中に果樹園が混在しています。また、南部では人工裸地、北部では二次草地も見られます。⁶



上府中地区の土地利用割合



上府中地区の土地利用

【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

自然体験・観察の場や身近にある緑、食の供給など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

～文化的つながり～

- **自然体験・観察の場**：「上府中公園」では、野球やサッカー、ゲートボール等のスポーツを楽しめる他、四季それぞれの景色や水鳥が集まる水辺観察を楽しむことのできるウォーキングロードも整備されています。水辺の植物やトンボ類の観察、ケヤキなどの樹木等の池や庭園の自然観察にも適しています。⁷
- **教育施設**：「千代小学校」校庭にはケヤキの大木があり、小学校のシンボルとなっています。周囲の田園風景と合わせて、小田原の原風景になっています。⁸
- **神社・寺院**：神社や寺院が多数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。
- **その他の資源**：北部には「酒匂堰」があります。過酷な労働に加え、天災など種々の要因による凶作の不安に脅える状態が続いていましたが、戦後になり農業基盤の改善が急速に進められました。酒匂川以東の水田

⁶ 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

⁷ 出典：小田原の自然（小田原市教育研究所,平成9年（1997年））

⁸ 出典：小田原ふるさとの原風景百選（小田原市環境部環境政策課,平成19年（2007年））

を潤す「酒匂堰」は、酒匂川左岸土地改良区によって昭和 27 年（1952 年）に着手、満 7 ヶ年を費やし完成したものです。⁹

～食のつながり～

- **米**：水田が広範囲を占めており、食を供給しています。

【地区で見られる特徴的な自然】

天然記念物や巨樹・巨木林に選定された樹木など、大切に守り残していきたい自然環境が存在しています。

- **巨樹・巨木林**：「八幡神社」「三島神社」に生育する次表の樹木は、環境省が実施する自然環境保全基礎調査の巨樹・巨木林調査¹⁰で、保全すべき巨樹・巨木林に選定されています。

巨樹・巨木林概要

所在地	樹種	樹高(m)	樹幹(cm)	調査年
八幡宮	イチヨウ	23	420	平成12年（2000年）
	イチヨウ	23	370	平成12年（2000年）
三島神社	ケヤキ	18	570	平成12年（2000年）
八幡神社	ケヤキ	18	470	平成12年（2000年）

※出典：第 6 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書（環境省自然環境局生物多様性センター、平成 13 年（2001 年））

- **天然記念物**：「三島神社」のケヤキは、天然記念物に指定されています。

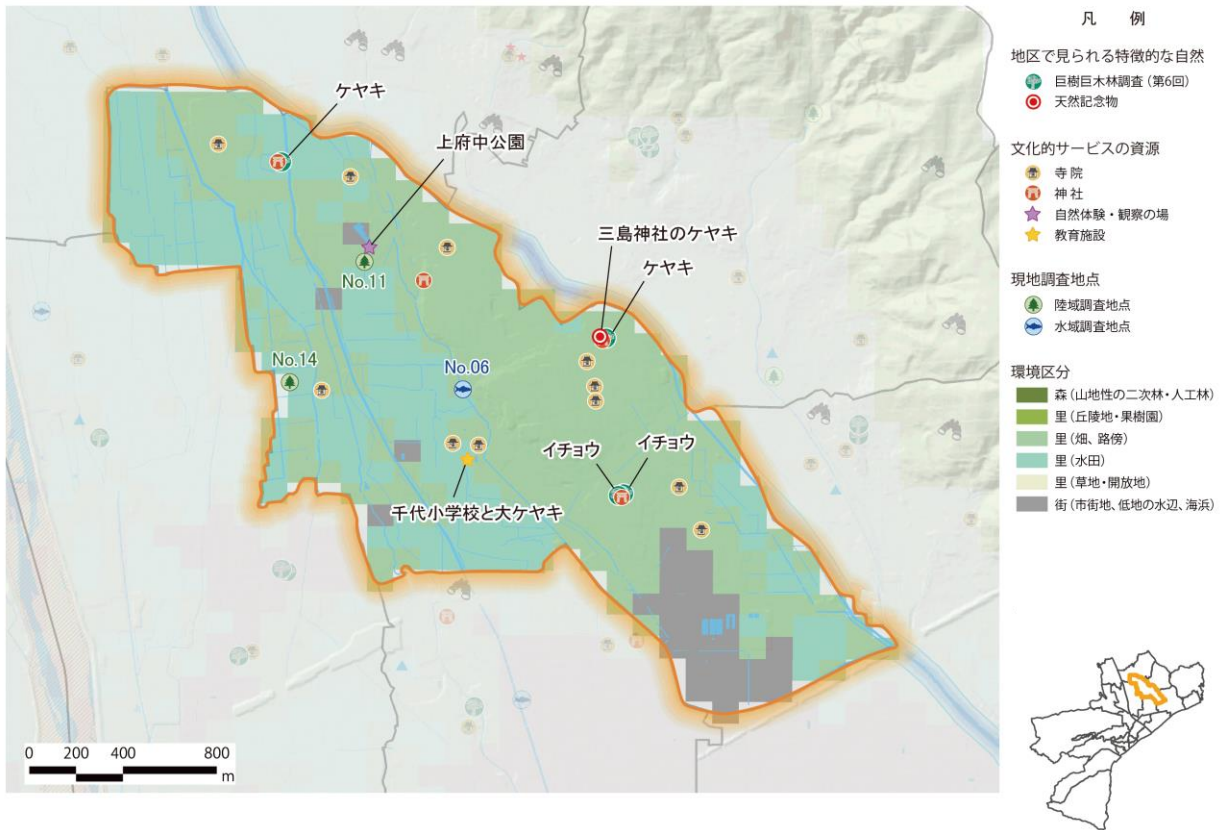
天然記念物概要

名称	指定	指定年月日	所在地	概説
三島神社のケヤキ	市	平成5年（1993年） 11月1日	三島神社	ケヤキは本州、四国、九州及び朝鮮半島、中国の山野に自生する落葉広葉樹で、材質がはなはだ堅く木目が美しいために、建築用資材をはじめ広く様々な用途に利用される樹木。 三島神社のケヤキは、根元から第一枝までの高さが12.5mもあり、根張りも素晴らしく、樹形・樹勢ともに優れた巨木。

※出典：小田原市 HP「天然記念物」をもとに作成 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/property/cultural/natural/>

⁹ 出典：小田原市 HP 小田原デジタルアーカイブ <https://www.city.odawara.kanagawa.jp/darc/item/197/>

¹⁰ 巨樹・巨木林調査：巨樹・巨木林は、わが国の森林・樹木の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要である、として、その全国的な実態を把握することを目的に実施されている調査



上府中地区の自然環境マップ